

(2) 学級全体の变容

① 学級の雰囲気調査による变容

学級の雰囲気調査による变容をA群・B群・C群の3群に分け、好ましい方向に変容した場合を「プラス」、逆の場合を「マイナス」としてまとめたものが次の表である。

群	人数	プラス	変化なし	マイナス
A群	22人	10人	5人	7人
B群	24人	9人	9人	6人
C群	26人	11人	12人	3人

全ての群で、学級の雰囲気を好ましい方向へ変容したように受け止めている生徒の方が多いことがわかる。

このように、本試案が、学校不適応状態にある生徒の学校不適応意識を軽減させるだけでなく、現在学校に適応している状態にあると考えられるC群の生徒の学級集団への適応意識をもより高めたことを示すものである。

これは、本試案が学級内での実践を目指した対人関係を促進するトレーニングであったために、個人の行動変容だけでなく、学級全体の雰囲気も好ましい方向へ変容したことを示している。したがって、すべての生徒を対象にした、適切な指導援助であったことが示された結果である。

② 学校不適応意識にみる变容

学校不適応意識の調査から、事前・事後の比較において、変容が明確に現れた学校不適応意識の3項目について抜粋した。

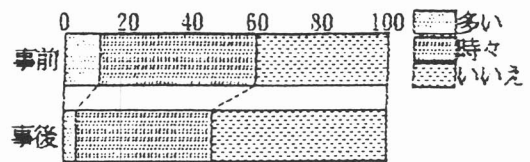
《資料3-7》

抜粋した3項目の結果からも、本試案により学校不適応意識の軽減が図られたことは明らかである。特に「学校を休みたいと思う」という「不登校」につながる不適応意識が大きく改善されている。

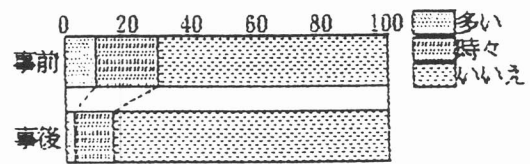
また「気持ちが沈む」や「夜眠れない」などの身体生理的な不適応感も軽減していることが目立つ。

《資料3-7》

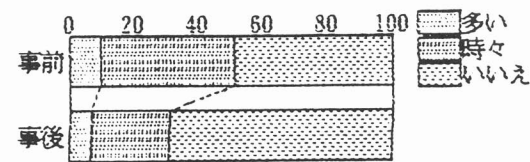
【2-2 学校のことを考えると、気持ちが沈むことがありますか。】



【2-3 学校のことを考えると、夜なかなか眠れないことがありますか。】



【2-10 学校がいやで休みたいと思うことがありますか。】

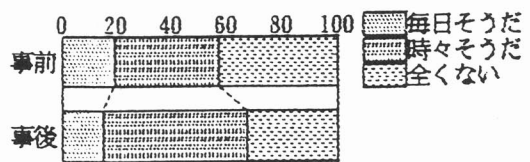


③ 社会生活技能の変容調査

「あいさつ」に関する社会生活技能の調査から、

《資料3-8》

【5 あいさつはできるが、特定の人としかできない。】



【7 相手からあいさつされないと、あいさつを返すことができない。】

